

木工研究会 「木工家のための写真講習会」

開催日時：2019年11月23日（土）13時～17時

会場：松本市 長野県工業技術総合センター 会議室

講師：渡部健五（カメラマン） 西川栄明（木工ライター）

参加者：木工会員7名 一般14名

報告者：浅村治利

自身の製作した作品を写真に残す事の重要性は皆少なからずとも感じていると思います。

カタログやアルバム資料として残すにはプロに依頼するなどの方法もありますが、昨今のSNS（Instagram等）影響力を考えると、質の高い写真をタイムリーに発信する事が重要で、自身で美しい写真を撮れるようになりたいところです。

今講習会では多くの木工作品を撮影されている渡部健五氏と、木工ライターの西川栄明氏を講師として迎え、プロの技術を目の前で披露していただきました。

講習内容は写真の基礎として

- ・光の当て方（ライティング）
- ・背景の作り方
- ・作品の魅力を引き出す角度

3項目を主として講義が開催されました。

まずは渡部氏が今まで撮られた写真を見ながらその時の撮影状況や、どのような考えで写真を撮ったのか解説していただきました。

渡部氏の撮影スタイルは現場主義で、まずは作家本人との対話から写真のイメージを考えるそうです。

技術的な解説で何度も強調されたのは光源の取り方です。基本、光源は1つのみとし、真上からの光は極力使わず、真横もしくは後ろから当てるそうです。自然光であれば反逆光の配置となります。

続いて実際に作品を撮りながらの実演となりました。

簡易的に撮影スペースを作られたのですが、準備された器材はカメラの他に三脚、トレーシングペーパー、レフ板のみです。光源は窓から入る自然光で、室内の蛍光灯は消灯しました。

椅子→箱物→漆器→小物と、その都度詳しい解説を含め実演いただきました。



漆塗りの椅子撮影。光源の窓は写真右の白いトレーシングペーパー裏にあります。
椅子の向きを調整して撮影する角度を決めています。



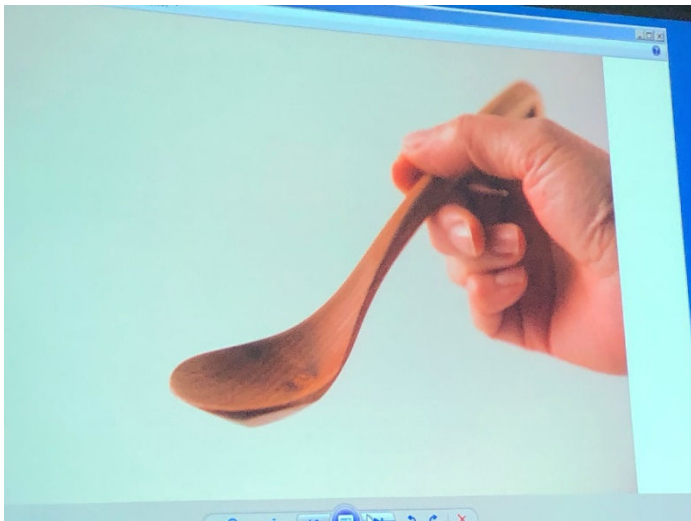
箱物撮影。
思いがけず私の作品を撮影していただきました。
この後、同じ位置からスマートフォンでも撮影してもらいました。



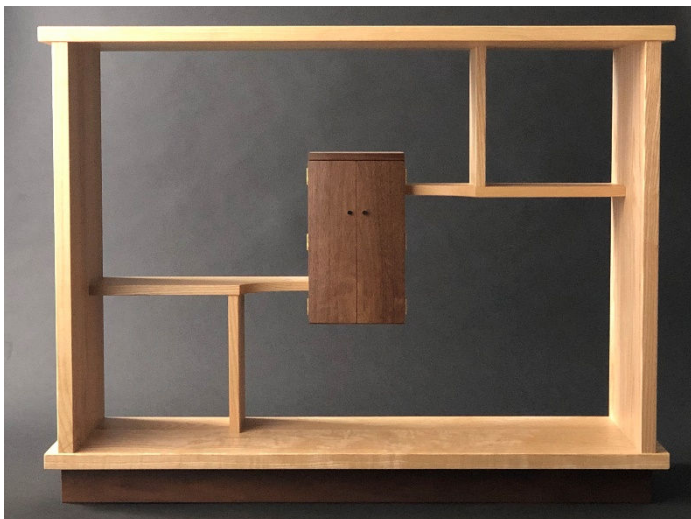
漆器撮影。
漆塗りの物は艶が出る為、映り込みをどう対処するのが難しいそうです。
参加者には特別に「秘伝の技」まで教えていただきました。



小物撮影。スプーンを撮っています。右の人が実際にスプーンを持って、握った時の状態を作っています。



撮影後、プロジェクターで解説。漆器の時もそうでしたが、レフ板と背景のトレーシングペーパーを色んな角度にして撮影していました。



スマートフォンで撮っていただいた箱物。中央にあるウォールナット厨子のグラデーションが綺麗に撮れています。

今後自身で撮影をする際に準備したい物としては、トレーシングペーパーとレフ板があると良いと思います。続いて三脚、長物のレンズ（単焦点）。私は普段からスマートフォンでの撮影しかしない（できない）のでレンズ以外の環境は試してみたいと思いました。

撮影中に渡部氏が「簡単に撮る事はできないけど、簡単に撮るものではないと思っています」の一言が、作者（作品）へのリスペクト、自身の撮影に対する心意気を感じる言葉でした。